

平成25年度研究科横断型教育プログラム（Bタイプ）授業科目

開講方式	Bタイプ (特別開講型)	研究科等名	文学研究科	横断区分	文理横断型	開講場所	吉田キャンパスにて開講予定
授業科目名 (英訳)	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング (critical thinking on science, technology and society)			講義担当者 所属・氏名	文学研究科 伊勢田哲治		
配当学年	修士 博士後期 専門職	提供可能 コマ数	6コマ	開講期	5/14, 5/28, 6/11, 6/25, 7/9, 7/23 火5限 (16:30-18:00)	授業形態	講義+演習
〔授業の概要・目的〕							
伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。目標は、クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること、科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること、である。							
【研究科横断型教育の概要・目的】 理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を要請することが目的である。							
〔授業計画と内容〕							
テキストは10のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち3つをとりあげることを予定している。実際に何についてディスカッションするかは受講者の興味も踏まえて決定するが、候補となるのはたとえば以下のようなものである。							
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組み換え作物 ・脳科学の実用化 ・血液型性格判断 ・宇宙開発への公的投資 ・原爆投下の是非を論じること自体の正当性 							
これらのトピックとあわせて学ぶスキル・知識としては、							
<ul style="list-style-type: none"> ・議論の特定 ・暗黙の前提の特定 ・社会的CT ・四分割表 ・メタCT ・予防原則 ・リスクコミュニケーション 							
などを予定している。							
〔履修要件〕							
とくになし。							
〔学修証授与の要件〕							
3分の2以上の出席と積極的な授業参加							
〔教科書〕							
伊勢田哲治ほか編『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』(名古屋大学出版会、2013)							
〔参考書等〕							
伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』ちくま新書							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
文理を問わずさまざまなバックグラウンドを持った大学院生の参加を期待する。							